

豊剣会だより

令和4年度版

令和5(2023)年1月発行

発行者 豊剣会【豊中中学・高校剣道部OB会】事務局



創部百周年記念の祝賀会と記念誌のご案内

今年、豊中高校剣道部は創部百周年を迎えました。このめでたい祝賀年を記念して祝賀会を開催し、記念誌を発行することになりましたのでご案内をいたします。祝賀会当日はたくさんの歴代顧問の先生方をお招きしておりますので皆様お誘い合わせの上ご来会下さるようお願い申し上げます。

祝賀会のご案内

日時 3月25日(土) 午後5時～7時
場所 ホテルアイボリー・オーキッドホール
豊中市本町3丁目1番16号 豊中駅北口より徒歩3分
06-6849-1111 (代表)
会費 7千円 学生は2千円

大会、祝賀会のご都合並びに記念誌のご購入についての返信のお願い

印刷冊子購入代 2千円(送料込)
6月頃記念誌完成予定
発送時に請求書を同封いたします。
※準備ができましたら豊剣会ホームページ上でもPDFを誰でもダウンロードして見れるようにする予定です。

大会、祝賀会の出欠と記念誌・印刷冊子購入の希望を、2月15日(水)迄に同封のハガキもしくは左のQRコードからのアクセスによるメールにて事務局宛にご一報くださいますようお願い申し上げます。ハガキを使用される場合、63円切手の貼付をお願いいたします。なお祝賀会直前にキャンセルされる場合、3月22日(水)迄に事務局宛にできればメール、難しいようでしたら電話で連絡いただければ取消料は無し。3月23日(木)以降、開催中止以外でキャンセルされた場合、大変恐縮ですが、実費相当の取消料3500円を請求いたします。

連絡先：事務局代表 並河徹也
メールアドレス：houkenkai_toyokou@yahoo.co.jp 電話番号：080(1454)2065



豊剣会の皆様には平素より、豊剣会及び豊高剣道部に対し何かとご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。新型コロナウイルスが収まらず、世界・剣道界も困難な状況に晒され、暫く難渋が避けられそうにありません。そういつた中ですが、次年度(四年度)は剣道部設立百周年のすべき年になりました。そこで会長提案ですが、百周年たつて、皆様から(当時の写真め)その期独自の思い出などを頂いて小冊子にし、さらに(コロナ禍が収まることを前提に)祝賀会もより盛大に開催することを考えております。従って、毎年二月発行の「豊剣会だより」を、次回は皆様の寄稿による小冊子にさせていただきますので、祝賀会も三月末の大会後の「豊剣会総会・懇親会」を、多数のご参加により交流を深めることで百周年

サンプルテキストです

に一層華を添えることができると存じます。次に豊高剣道部にとっての朗報です。即ち、(現役時部長で上段を得意としていた)高六七期の田中裕二郎さんが、令和三年四月から豊高の英語教諭として赴任され、上林先生と一緒に剣道部顧問としても指導に当たられております。豊高剣道部の現状は、田中先生のご挨拶での記載の通り人数面では少々寂しいですが、平成二九・三〇の両年度が部員ゼロだったことを思うと、まずまずの人数ですね。その上、次頁に副部長が記載の、北摂学校剣道大会をはじめとする活躍ぶりを見ると、顧問の指導・部員の努力の結果が表れています。具体的成果は副部長の記事をご覧ください。本本当に飛躍の年でした。

府教育大付属池田高校教諭の(池内先生・一六四期生で現在大手前高校教諭の)安良田さんや、田中さんの剣友の先生方と連携を取り、練習試合や合同稽古を重ねています。また、コロナが小康状態だった昨年秋までは、並河さん(二九期)・福田さん(三期)・田村さん・西村さん(兩名六三期)・その他の方々が剣道場によく足を運んでくれました。私もコロナの影響で、本拠地としている稽古場三か所(稲門会、三田剣友会「早慶剣道部OB会」、経産省剣道部)が未だ再開されていませんが、昨年春から縁あって鶴見区の私立高校へ週四日ほど指導に行っており、また週一日は五か所の稽古場をそれぞれ廻りながら、何とか週五日程は稽古をしています。

豊剣会も最近では若いOB・OGの多くの皆さんが稽古をされています。剣道から遠ざかっている会員の皆様、久しぶりに竹刀を持たれてはいませんか、是非お薦めいたします。

(面手拭を含む) 協賛金・寄付金協力者名と短信等

昨年末までに協賛金・寄付を振込・持参いただいた方、及び短信(少し編集してます)を頂戴した方のリストです。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

(注)敬称略。氏名の()内は旧姓。数字は中学の回・高校の期。「」内は短信・転居等の情報。なお住所変更等は個人情報の問題で事務局留りとしています。お知りになりたい方へは、ご本人の了解を確認してからお知らせします。

なお、誠に残念ですが、今回も何名かの方の訃報に接しました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

- ※ 中学
- 23 芳賀洋。
- ※ 高校
- 7 今西春禎。
- 10 近久智彦。福本真憲。吉村克彦。
- 13 大芝利文「コロナの終息を願い高校及び豊剣会の復活を祈ります」。
- 14 丹羽太貴。
- 16 大芝信雄。古川與四郎。
- 17 松尾(高田)信子「また一度、行きたいと思っています」。
- 18 松村栄太郎。 19 松原基夫。
- 20 高田裕文。 27 寺田雅史。
- 28 八島一郎「豊中中学・高校百周年、剣道部も百周年、おめでとうございます!!」。
- 29 加藤芳哉「『豊高剣道部創立百周年』お豊高剣道部のご活躍と豊剣会の益々のご発展を祈ります」。
- 吉矢和彦。
- 30 石橋一雄。小瀬戸由起子。島村宏二。
- 32 伊藤(阪口)基子。
- 33 浅野(小林)潤子。太田哲也。
- 34 本山佑子。
- 45 久保田(今泉)佐知子。宮脇昌美。
- 48 西垣僚子。 66 才川正哲。
- 57 中川賢士(住所変更)
- 61 石原一弘(住所変更)
- 67 林大輔。
- 69 鳴田千晶。橋本佳奈。



豊中中学・豊中高校剣道部 100周年記念誌の件

矢倉雄太 (高60期)

この度、剣道部100周年記念誌の原稿執筆の機会を頂き、改めて当時のことを思い出しますと、嬉しかったこと、辛かったことなど様々な記憶が想起されるとともに、先生や先輩、同期、後輩への感謝の念が堪えません。

私たちが入学した際、日体大卒で七段をお持ちの前田良憲先生が豊中高校へ赴任されて数年がたったころであり、指導者に恵まれておりました。懐の深い先輩方にも温かくいただきました。後輩にも恵まれたことがあったように感じます。

しかし、当時の剣道部は、十下の大会でもせいぜい2、3回出止まりで、個人的には満足のような成績を上げられており、喜びがありました。良い意味でのりとした環境のなか、どこか羨ましくも思っていました。私生活のこともあったので、数名の同期と、稽古をサボって、保健室で「剣道部を辞めようか」と話し合ったことも、懐かしく思い出されます。

私たちの期が一番上の学年となり、私たちは、「日常的に仲良くつるむ必要はないが」「とにかく勝ちにこだわって稽古する」ということを共

サンプルテキストです

サンプルテキストです

令和三年度豊剣会決算報告

一 前年度繰越金	210,658
二 会費協力金等	320,193
三 第二七回豊剣杯争奪大会・懇親会会費(中止のため)	0
四 雑収入	1
合計	530,852

(支出の部)

一 第二七回豊剣会大会・懇親会	0
二 北摂学校剣道大会賛助金	30,000
三 剣道部合宿援助費	0
四 通信費	38,640
五 豊剣会だより印刷費	26,400
六 会議費	0
七 創立百周年記念事業「寄付者ご芳名録」協賛広告掲載料	100,000
八 雑費	16,280
(振込用紙 11,000、封筒 5,280)	
九 次年度繰越金	319,532
合計	530,852

協力金のお礼
その用途のご報告とお願い
高十八期・会計
松村栄太郎

協力金は、剣道部合宿の支援・卒業生への手拭贈呈・部活上必要となる補助・大会・懇親会運営等に使用しています。また、協賛金による印刷・発送等に約六万円以上がかりました。

反面、豊剣会だよりの郵送作業や大会の進行等を担っているメンバーは、多忙な中ボランティアで運営を引き受けています(交通費等は一切出ておりません)。この伝統ある行事を一旦閉じると、再開は非常に困難です。

多くの方から会費協力金を頂戴し、心よりお礼申し上げます。ただ、依然として財政面の窮状は続き、加えて新卒生に贈呈してきた面手拭の残部が少なくなり多額の費用が必要となります。引き続きご支援をお願い申し上げます。同封の振込用紙を添付いたします。一口が三万円(中学生二万円)です。出来れば数口お願いします。送料は不要です。

通認識とし、稽古に打ち込むスタイルを採りました。「ただ楽しく剣道をする」ということを止めたのです。

同目的実現の過程で、時には自分に甘くなってしまう私に対し、本気で厳しく言ってくれる同期もおりました。同期の厳しくも愛のある言葉やサポートのおかげ、部長職も無事に勤め上げることができたと、当時から感謝しております。

このような努力もあってか、私たちの代は、北摂学校剣道大会において、雲雀丘学園高校を準々決勝にて下し、決勝で履正社高校に敗れたものの、「準優勝」という成果を上げることができました。

私にとって、同期は、「仲間」という易しいものではなく、苦しい時期を共に乗り越えた「戦友」です。卒業後もなく、同期から「仲間だ」と思っている」と言われた際、私は「仲間だとは思っていない」と言ってしまったことがあります。それは「仲間」などと易しいものではなく、戦友ともいえない特別な感情があったからです。しかし、なぜあの時、「そうではなく、戦友だ」と思っている

と一言付け加えなかったのか、言葉足らずであったと後悔しています。早いもので高校卒業から15年という時が経ちました。今思い返しても豊中高校剣道部での毎日は、嬉しいことも、辛いことも、多くの経験を与えてくれたかけがいのない時間です。豊中高校剣道部に所属し、前田先生にご指導いただき、先輩や同期、後輩と貴重な時間を過ごせたことは、今も私の誇りです。

